

令和3（2021）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	情報処理の基礎1 (Foundation of Information Processing 1) 392099-14700					担当教員	村山 光博 (ムラヤマ ミツヒロ)		
科目区分	専門科目	必修・ 選択区分	選択	単位 数	2	配当年次	2年次	開講期	後期
科目特性	資格対応科目 / 知識定着・確認型 AL								

① 授業のねらい・概要									
現代の社会では、仕事や生活の中で情報通信技術（ICT）を正しく使いこなす技能や知識を身につけることが期待されている。本授業では、経済産業省の「IT パスポート試験」で求めている職業人として共通に備えておくべき情報技術に関する基礎知識の中で、主にストラテジ系「企業と法務」、「経営戦略」の分野に関する用語等を理解し、他者に説明できるようになることを目標とする。授業は主に講義形式で進め、随時 Classroom（授業支援システム）を利用した双方向コミュニケーションを行う。									
② ディプロマ・ポリシーとの関連									
職業人として通用する能力 / 専門的知識・技能を活用する能力									
③ 授業の進め方・指示事項									
○本授業は主に講義形式で進め、ほぼ毎回の授業で小テストおよび予習課題を課す。 ○授業内の時間配分は概ね次の通り ・ 前回小テストの答え合わせと解説【約 20 分】 ・ 授業範囲の講義【約 50 分】 ・ 予習課題の説明と小テストの実施【約 20 分】 ○随時 Classroom（授業支援システム）を利用した双方向コミュニケーションを行う。 ○テキストは必ず購入して持参すること。									
④ 関連科目・履修しておくべき科目									
IT パスポート試験対応科目の「情報処理の基礎2」、「情報システムの基礎1」、「情報システムの基礎2」、「コンピュータネットワーク1」、「コンピュータネットワーク2」と合わせて履修することが望ましい。									
⑤ 標準的な達成レベルの目安									
IT パスポート試験の出題範囲「企業と法務」、「経営戦略」に関して次の達成レベルを目指す。 (i) 用語に関するいくつかの説明文から適切な説明文を選択できる。 (ii) 用語に関する説明の不足を補うことで、適切な説明文を作成することができる。 (iii) 計算問題を正しく解くことができる。									
⑥ テキスト（教科書）									
富士通エフ・オー・エム(2020)『令和 2-3 年度版 IT パスポート試験 対策テキスト&過去問題集』、FOM 出版									
⑦ 参考図書・指定図書									

--

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	50%	20%	30%					100%
(i) 用語に関するいくつかの説明文から適切な説明文を選択できる。	20%	20%						40%
(ii) 用語に関する説明の不足を補うことで、適切な説明文を作成することができる。	25%		30%					55%
(iii) 計算問題を正しく解くことができる	5%							5%
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テストの答え合わせと解説を次回の授業時に行う。</li> <li>・予習課題の評価は Classroom（授業支援システム）を利用して各受講者にフィードバックする。</li> </ul>							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識の定着を促すために、ほぼ毎回の授業で予習課題を課している。</li> <li>・履修者自身が学習状況を把握しやすくするための支援環境として Classroom（授業支援システム）を利用したい。</li> </ul>

⑩ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）
1	授業概要の説明 企業活動	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習課題への取り組み</li> <li>・企業の組織構成、経営資源、経営管理等の企業活動の理解</li> </ul> 60分
2	生産管理・在庫管理・資産管理	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習課題への取り組み</li> <li>・JIT、MRP、生産方式、経済発注量、発注方式、在庫評価等の理解</li> </ul> 90分
3	OR（オペレーションズリサーチ）・業務分析・業務計画	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習課題への取り組み</li> <li>・パレート図、ABC分析、管理図、ヒストグラム等の分析手法の理解</li> </ul> 90分

4	意思決定・問題解決手法	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習課題への取り組み</li> <li>・Zグラフ、期待値、親和図法、連関図、系統図等の理解</li> </ul>	90分
5	会計・財務	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習課題への取り組み</li> <li>・損益分岐点、貸借対照表、損益計算書等の理解</li> </ul>	90分
6	知的財産権	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習課題への取り組み</li> <li>・著作権、産業財産権、不正競争防止法ソフトウェアライセンス等の理解</li> </ul>	90分
7	労働関係法規・取引関連法規	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習課題への取り組み</li> <li>・労働基準法、労使協定、労働者派遣法、下請法、個人情報保護法等の理解</li> </ul>	90分
8	倫理規定・標準化関連	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習課題への取り組み</li> <li>・コンプライアンス、コーポレートガバナンス、情報倫理、標準化等の理解</li> </ul>	90分
9	経営戦略手法	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習課題への取り組み</li> <li>・SWOT分析、プロダクトライフサイクル、経営戦略、アライアンス等の理解</li> </ul>	90分
10	マーケティング	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習課題への取り組み</li> <li>・市場調査、マーケティング・ミックス、バランススコアカード、SFA、CRM、SCM等の理解</li> </ul>	90分
11	技術戦略マネジメント・ビジネスインダストリ	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習課題への取り組み</li> <li>・技術開発戦略、イノベーション、POS、RFID、ERP等の理解</li> </ul>	90分
12	ビジネスシステム・エンジニアリングシステム	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習課題への取り組み</li> <li>・業務別ソフトウェア、業種別ソフトウェア、電子申請、エンジニアリングシステム等の理解</li> </ul>	90分
13	eビジネス・IoT・組込みシステム	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習課題への取り組み</li> <li>・EC、電子マネー、クレジットカード、IoT、組込みシステム等の理解</li> </ul>	90分

14	計算問題演習	テキスト	・過去問題の計算問題への取り組みとポイントの理解	60分
15	まとめ	テキスト	・各回授業のポイントの振り返りと 期末試験に向けた準備学習	180分

⑪ アクティブラーニングについて				
知識定着・確認型 AL				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回、授業内容に関する小テストを課し、小テストの答え合わせと解説を次回授業時に行う。</li> <li>・次回の授業内容に関する予習課題（レポート）を課し、次回授業までに提出を求める。提出された内容を評価し、採点結果および必要に応じてコメントを返却する。</li> </ul>				

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の概要				
システム開発会社に勤務し、中小企業の情報システムの企画、設計、開発、運用・保守や社内ネットワークの構築等の幅広い業務に携わった経験がある。				
実務経験と授業科目との関連性				
教科書で説明される情報システムの開発に関する知識は、比較的規模の大きい企業を対象とした理想的な環境を前提としているが、中小企業のシステム開発においてはその理想に合わない場合もあるので、システム開発現場の実情についてもできるだけ補足説明を加え、より実践的な知識として定着を図る。				